



農協だより

Vol.86

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成 25 年 10 月

平成25年産 米穀の買入れ価格決定

平成 25 年産玄米買入れ価格が下記の表のとおり決定しました。

全国的に平成 24 年産米の在庫が多く、米相場が安く推移しているため、JA 安芸としても昨年に比べ価格を抑える決定をいたしました。全国農業協同組合連合会の平成 25 年産米の概算金は主食用うるち米コシヒカリ 1 等 6,000 円/30 kg、ヒノヒカリ 1 等 5,500 円/30 kg と決定しており、JA 安芸では「管内で収穫された米穀は管内で消費」することを基本とし高値買入れを行っておりますので、生産農家のみなさまには是非、JA 安芸へ全量出荷していただきますようお願い申し上げます。

平成 25 年産 米穀買入れ価格		円/30kg		
銘 柄		1 等	2 等	3 等
コシヒカリ		7,700	7,200	6,700
ヒノヒカリ		7,500	7,100	6,700
あきろまん		7,300	7,000	6,600
上記以外の銘柄		6,800	6,400	5,800
こだわり米	食味値 83 以上	8,400	-	-
	食味値 70~83 未満	7,900	7,700	7,000

上記価格は 11 月末までの買入れ価格です。各等級ともに 12 月~3 月までは 100 円、4 月以降は 70 円下がります。

ぶどう立毛品評会

9 月 5 日に瀬野川農事研究会ぶどう部会の立毛品評会を行いました。当日は安芸区職員、JA 安芸営農指導員の 3 名により審査を行いました。今年は 8 月の天候が良かったため例年に比べ病気の被害が少なく、果実の熟期も平年に比べ前進しました。8 月末からの降雨により一部裂果が見られましたが、全体では順調な年となりました。

午後より房じまりや果粉ののり、有核の有無など果実の調査を行いました。8 月の夜温が高かったため着色不良が心配されましたが、着色、障害果等が少なく大変良い物が出品されました。



25年産米検査が始まりました！

9 月 26 日より米検査が始まり 816 袋の検査を行いました。今年は猛暑の影響で、コシヒカリでは心白による被害粒が大半を占め、品質の低下のため 1 等米が皆無の状況となりました。また、カメムシによる部分着色被害もあり、早生種では非常に厳しい年となっています。ヒノヒカリの出荷も若干ありましたがこちらは登熟期の夜温が下がったため、心白による被害は少なく、これから品質の良いものが多く出荷されるものと予想されます。

収量は今年も多めと予想されていますので、1 袋でも多くの出荷をお願いします。まだ申込をされていない方は、出荷申込書、栽培履歴を下見検査までに提出していただくようになりますので、検査日等も含め各支店購買部へお問合わせください。

「平成25年度JAグループ広島東日本大震災支援隊」に参加しました！

今年で 3 回目になる「平成 25 年度 東日本大震災たすけあい運動支援隊」が 9 月 16~20 日までの 5 日間、広島県内 JA グループの 50 名が福島での被災地支援活動を行いました。JA 安芸からも 2 名参加いたしました。大震災から 2 年半が経ち被災地も心なしか落ち着きを取り戻しておりますが、福島では原発事故の風評被害により未だに困窮しています。今回の支援内容は、果樹の選果場での選果、JA 子会社の榊新ふくしまファームでの作業、組合員農家でのキュウリの摘葉作業、放射能モニタリング検査の視察を行いました。果樹の選果場ではナシの「豊水」が最盛期をむかえておりましたが、前日の台風により出荷収量は少なくなっておりました。台風での落果は通常は加工品（ジュースやジャムなど）にまわされますが、福島では落果は放射能の関係ですべて破棄され、安心・安全な農産物を全国に届けておられます。榊新ふくしまファームでは津波の塩害を受けた水田を再生させる目的で、除塩効果のある綿花が試験栽培されていました。福島ではキュウリの抑制栽培が盛んですが、風評被害により農家の収入が 1 割以下になり大変困っておられました。今では 7~8 割まで回復したとはいえ、震災前までの回復にはいたっていないとお話を聞かせていただきながら、わずかながらでも力になればという思いで摘葉という支援をおこないました。

また、放射能モニタリング検査は年間 3 万件の全農産物（米以外）が農家から持ち込まれ、基準値を超える放射線量を検知した場合は出荷制限となっています。この検査は生産履歴と連動して有効期限が 30 日となっております。1 台 1,500 万円を超える検査機器が 46 台もあり、精度の高い厳しい検査を行っておりました。

この検査や組合員農家の考え JA 新ふくしまの取り組みで、福島県の農産物は科学的に安全、安心であると立証され、全国の消費者に提供されていると感じました。もし福島県産の農産物に出会ったなら、手にとって味わっていただきたいと思います。



10月 営農メモ

水稲

稲刈り後の除草剤について

クロレートS 秋雑草生育期(刈取り後より20日頃まで)が処理適期で、20~25kg/10aを全面処理となります。処理後降雨が予想される場合は効果が劣りますので散布を控えます。

処理後3週間は土壌改良剤の散布や荒起こしをしないようにしてください。

ラウンドアップマックスロード 非選択性移行型の茎葉処理剤となりますので、刈取り時には浅刈りしますが、通常の深さで刈取りした場合は少し草が再生した頃に散布します。クログワイの発生がひどい場合散布を行うことで、塊根が無処理に比べ1/4程度に軽減するとの試験結果があります。

野菜

軟弱野菜

10月上旬に播種を行うと12月中下旬に収穫となります。以降10日間隔で播種し、12月上旬頃に播種すると2月下旬の収穫となります。

年によっては11月20日頃に寒波が来て生育が停滞する時がありますので、寒さが予想される場合にはこの頃にユーラックで被覆し保温しましょう。

11月に入って播種する場合は、播種後より直ぐにべたがけ資材、ユーラックで保温しないと、とう立ちする恐れがありますので必ず行ってください。

たまねぎマルチを利用すると泥はねが軽減し調整作業が楽になります。また両端はトンネルをした際、葉にビニールが当たり、寒さ等で白く焼ける事がありますので、中5列に植付けする様にしましょう。

気温が低いので収穫までの日数がかかりますので肥切れさせない様に25~30日おきに追肥を行います。

寒い時期の作型のため、害虫被害はあまりありませんが、初期にヨトウムシ等の被害があればアフーム乳剤等で防除しましょう。

草丈27cm程度が収穫適期となります。2月中旬になると気温が高くなり急激に株が伸長する事がありますので取り遅れない様にしてください。

病害虫

10月中下旬頃より夏に植付けしたキャベツやはくさい等の収穫期となりますが、今年はヨトウムシ類の発生が多いため農薬を散布される場合収穫前日数に注意しましょう。

台風等強風が吹いた後はあぶらな科作物では黒腐病等の発病が多くなりますので、台風経過後はZボルドー等を散布しておきましょう。

アブラムシ ジェイエース水溶剤、アディオン乳剤、アルバリン顆粒水溶剤など

ヨトウムシ類 アフーム乳剤

べと病 プロポーズ顆粒水和剤、リドミルMZ水和剤、Zボルドーなど

果樹

果樹りんご

リンゴ 品種 つがる (早生種 収穫9月) ふじ (晩生種 収穫11月)
受粉樹 必要 10~30% 生理的落果 6月

さび防止 果面のさび(果皮が傷ついたばあいに、その傷をふさぐためにコルク組織が形成され、果面が鉄さび状のざらざらした状態になること。)

① 樹勢を落ち着かせる ② 薬害を生じやすい薬剤(ボルドー液など)の使用を避ける ③ 落花後10日ころまでに袋かけを行う

摘果

1回目 えき花芽の果実と頂花芽の側果とを全部摘果

2回目 仕上げ摘果で1回目に残された中心果のなかから、残す果実を決める。おそくとも落花後30日ぐらいいまでに。

ふじ等 大玉品種 葉果比 60~70葉

つがる 中玉品種 葉果比 40葉

1頂芽から平均14枚ぐらいの葉が出るから大玉品種は4~5頂芽に1果、中玉品種は3頂芽に1果を残す。

袋かけ

さびの発生防止 無袋果にくらべ食味が劣る、袋掛け栽培が減っている

果実の肥大

果実は種子数が多いほど、摘果を早く、そして強くするほど、肥大が良好。土の有効水分量や根の深さが肥大に大きな影響をおよぼす。木が水分不足にならないようにする。

除袋

有袋栽培のばあいゴールデンデリシャス以外の品種は袋をはずして着色させる。除袋の時期は、早生、中生種は収穫1ヵ月前、晩生種は40日前くらいである。果実を急に日光に当てると日焼けを起こしやすい。①曇天の日を除袋する。②晴天の日には早朝を除袋をさけ、日中に行う③数日前から袋の下部を裂いて果皮を日光にならしてから除袋する。

葉摘み

無袋栽培、有袋栽培とも着色期には果皮に日光をあてて着色をよくするため、果実を覆っている葉を摘み取る。

収穫前落果の防止

つがる、デリシャス系などの品種は、成熟しない内に落果しやすいマデック乳剤(収穫開始予定日25日前及び15日前)

収穫

つがる 開花後の日数 115~125日 糖度13以上

ふじ 開花後の日数 175~190日 糖度16以上

休眠期の管理

剪定 12月~2月 切り口 トップジンMペースト

粗皮削り、落葉の掃除、ノネズミ対策(11月・3月殺そ剤)

施肥

基肥 12月 2,700g 秋肥 9月 900g 春肥 3月 900g (6年生)

(夏に窒素を過剰吸収させると品質が著しく低下する施肥しない。)